

令和4年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和5年2月15日(水) 10:00~12:00

茨木支援学校会議室

○出席者：協議会委員：5名

茨木支援学校：校長 准校長 教頭2名 事務長 指導教諭 教務部長 部主事3名
首席4名（うち1名は部主事兼務） 以上18名

○はじめに（校長・准校長あいさつ）

校長：おはようございます、校長の大峠です。卒業式まで、間もなくになって参りました。対面を嬉しく思う反面、マスク着用を求めない旨を政府が打ち出し、今後の教育活動において、どのようにして外していくか、重度の疾患がある児童生徒が通う本校としては、悩ましいところです。出口が見えてきたところで、3年前の教育活動に戻しておこうという考えの元、今の状態では制限があります。コロナ禍で活動を見てもらう機会が減ったので、そのあたりも改善できていければと考えています。

准校長：感染状況が落ち着き、高等部は修学旅行に USJ に行くことができました。小学部、中学部もポッチャ交流会を地域の方々で行うことができ、改めて、対面交流は大切であると実感しました。今後も感染症対策は守りながら、少しずつ従来の形に戻しつつ教育活動を進めていきたいと思えます。いつもありがとうございます。

1. 令和4年度 学校経営計画評価について

校長：中期目標の対応で全ての児童生徒に対して通学している子どもたちだけでなく、通学できない子どもたちに対して、も包括的に教育を行っていく。コロナ禍で学校間交流ができなかったのが、少しずつ工夫をしてできるようになってきている。自己評価で、課題は△のところ。例えば、令和5年度に向けてのキャリア教育のマトリックスの△は、先生の思いだけで授業をやるのではなく、この子の課題はこうなので、授業をしよう、評価をしようと持っていけるように、来年度は、必ず達成できるようにしていきたい。

准校長：進路先の選択については、就労4人、職業訓練校4人を含めて、ほかの生徒たちもほぼ進路が決まってきた。職業基礎コースは、指導内容が充実してきている。次の一年生から3年間を見通して積み上げていく。

<質問・意見など>

会長：しっかりまとめている。数値の指標について△○など、付けていただくことはよい。来年度の重点目標もしっかりきちんと入れていけないが、あまり高い目標は入れると、現場がついていけない。数字をきっちり書いていただいていること、プレッシャーだと思うが、結果がわかりやすい。わかりやすい経営計画で、上手に作っておられる。就労がしっかり結びついている。ここ3年間、それ以前と全然違うが、今まで以上に工夫をされた結果であろう。工夫をお聞かせください。

准校長：校内実習等で、授業のできる作業で精度を高めていく、指導内容を高めていくなどして、工夫と整理をしてくれたので、今後も続けていく。

校長：「事業所に行けない」「事業所が学校に来てもらうこともできない。」進路が行って、事業所にビデオを撮りに行ったり、説明会を動画で配信したりする等、何十か所も事業所に行き、できる工夫をしているが、保護者からすると、まだまだのところがある。今後、進路の在り方としては、行ける時には行きながら、小中学部の頃から参加していく等の工

夫も必要ではないかと考える

委員：△〇で学校評価をしているが、子どもにとって何ができるようになって、どんな取り組みをしたのか、どこが良かったのか、何をブラッシュアップしていかないといけないのか等、これらを先生方が共有をすることで、先生方の自信にもつながるのではと思う。

校長：分掌長や首席などが学校経営計画の目標など考え、基礎を作っている。ICT関係の評価が下がっている。分掌長など考えてくれている指標が厳しいと思うところもある。

2. 令和5年度 学校経営計画(案)について

校長：(資料に沿って説明) 中期目標1は大きな変更なし。中期目標2の中身に変更有。4-(2)はキャリア教育について大きく変わっている。中期目標なので3年計画で考えている。今年度の取り組みを経ての次年度の目標としている。資料2枚目以降は調整中。素案として参考程度に見ていただければ。次年度1回目の学校運営協議会でご確認いただく。

准校長：5-(3)業務改善について、働き方改革は、教育庁からも強く言われているところで、本校としても必要と思っていると。労働安全衛生委員会を中心に考えていきたい。

〈質問・意見など〉

委員：業務改善は学校だけでなく企業でもすごく難しい問題。ゴールが見えない。管理職はこれぐらいでよいと思っても、現場の先生がもっと良くしたいと思って取り組んでいる業務にストップかけるのは難しい。そんな中、毎年パーセンテージあげるのは大変かと思う。頑張ってください。

校長：毎水曜日の定時退庁について、次年度は教育庁からも指導があるとおりに17時退庁も視野として入れている。ただ、教員の業務量は本当に多い。退庁時間だけ早められても、という現状は必ずある。何ができるのか、大きなシステムから変える必要があると思う。小さなこと一つひとつは学校単位でできても根本の業務量の軽減にはなっていない。

委員：中期目標5について 先生方の激務・残業が報道されているところ。これからの若人の希望ある未来につながるのか、優秀な人材が教職に就かないのでは、と危惧している。教育に対する情熱・熱意だけでは難しい。環境づくりが重要。先生の抱える課題の多さ。ライフワークバランスを上手くとることは至難の業。ノーミーティングデイはきちんととれているのかなと心配。自宅での仕事の持ち帰りは休息にはならない。管理職の責任で、できるだけ良い環境を作っていってあげてほしい。PTAへの理解もぜひお願いしたい。

校長：激務もあり、児童生徒の家庭状況の変化等もあり、教職のなり手は本当に減っていると実感している。学校単位ではなくもっと大きな枠での取り組みが必要かと感じる。学校としては今後もできることに取り組んでいく。良いアドバイスなどあればぜひお願いしたい。

PTA会長：子どもが見せる顔はその場その場で違うので、その環境で、学校が、デイが、子どものことを考えて実践してもらえたらそれが良いと考えている。ただ、保護者によってはそう考えているわけではないとも思う。忙しい中とは思いますが、学校と家庭とのコミュニケーションを大切にしてほしい。

委員：コロナの影響で、リモートや遠隔でのやりとりが進んだ。一方で人と人の直接的なかわり合いは減ったと感じる。教育において結果はすぐ出でないこともあるだろうが、コミュニケーションを大切にしながら進めてほしい。地域の学校に出入りしていても、子どもの落ち着きがなくなったという声を聞く。黙食、人との距離など、コロナの影響は少なからずあると思う。取り戻すにはコミュニケーションしかないと思う。

委員：校長の中期目標4に違和感がある。4-(1)(2)(5)になっているのはなぜか。(3)(4)は准校長(高等部)だけに記載という意図なのだろうが。キャリアマトリックスなのだから小学部の段階から考えていくもの。せっかく小中高の

連携ということなので、あえて抜かさなくてもよいのでは。個人的に違和感がある。

校長:まったく同じにすると指導される現状。検討する。

委員:子どもの進路先 こういう施設があるんだと日頃から話してもらうための資料提供は必要と感じる。小中は関係ないというのは違うと感じる。

3. 学校自己診断

首席より資料に沿って説明

〈質問・意見など〉

委員:保護者の HP 教員の否定率も高いところが気になる。先生方はどう感じているのか。説明では保護者の慣れもあるのではということだったが、少し不一致を感じる。

校長:質問の設定が否定率につながっているのかと考える。個人情報に関係でできない。次年度質問の仕方を改善する。保護者への質問と教職員との質問のつながりを考える。

4. 授業アンケートについて

教頭:(資料に沿って説明)前回の協議会から今日までの間に 2 回目の授業アンケートが行われた。

レッド対応のため参観日が分散され、各学部あたりの参観日数が3日になったので、1 回目より回収数が落ちている。生徒のアンケートに関しては小学部の児童にはとっていない。分散したことで、指定した日にちに来れない保護者もいた。スコアは 4 点満点中保護者 3.6、生徒 3.9 で特段低かったということはない。意見も記載の通り。肯定率も 90 パーセントだった。

自由記述は、ご覧の通り。前回説明した以外を説明します。

・普段の様子が知れて良かったなど、家と違うイキイキした様子が見られたという肯定的なご意見だった。

・子どもへの言葉かけが少ない、待ち時間(作業などの)が長いというご意見もあった。

授業に関しては、授業改善の研修を研究部が中心に行っているが、子どもの特性に応じた言葉かけや伝え方に関しても気を付けていきたい。落ち着かない子供に目が行きがちなのはわかるが、頑張っている子どもにも声掛けが欲しいというご意見もあり、保護者とも協力して授業改善を行っていきたい。

委員:毎年似たような意見は出るだろうが、保護者は常にそう願っているのだから教員は真摯に受け止め、当たり前のことと思わず、初心に戻ってほしい。教師の本質は授業。どの年代の教員も今日より明日いい授業ができるようになりたいという思いを持ってほしい。授業力、教員全体の力の向上を願っている。

5. その他

特になし

6. 意見書 について

教頭:今回はなし。今年度は 3 回とも集合型で開催できて良かった。ありがとうございました。来年度も同じように開催できればと思う。評議員に関して、皆さんには今年度から 2 年間の委嘱をお願いし、特にご都合が悪くなければ、引き続きお願いしたい。